

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1671500310 | | |
| 法人名 | むらい食品株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホームときわ木の里 | | |
| 所在地 | 富山県富山市中大浦168-2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年10月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年2月17日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立山連邦が一望できる自然豊かな場所です。畑を作ったり、外出にも積極的にを行っています。家庭的な雰囲気の中で、地域との交流も含め、当たり前な事を当たり前出来る支援に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.jp/16/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kihon=true&JievosvoCd=1671500310-00&PrefCd=16&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 富山県富山市安住町5番21号 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年11月10日 | | |

・「どんな事があっても拘束はしない」が事業所方針となっており職員間で共有している。夜勤明けの申し送り時間や毎日のミーティングで、その日の一人一人の様子やケアを振り返り、気付かないうちに言葉などで利用者に混乱や抑圧を感じさせていないか、職員間で点検しながら、利用者が安心して過ごせる工夫を重ねている。
 ・入居者がこれまで培ってきた社会との関係を把握し、利用者の想いと願いに沿って買い物や食事などに出かける場面を多くして継続的な支援を進めている。更に、事業所の包括的ケアや理念や方針に基づくお世話に対して、家族からは『母が毎日穏やかに笑顔で過ごさせて貰っている。その姿を見ると私たちも癒されます』とのメッセージが寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 住み慣れた地域での安心した暮らし、関係性、地域生活の継続を大切に、柔軟な支援を柱としている。日々のサービス提供において利用者本位という理念に向けて取り組んでいる。 | ・理念、運営方針、行動基準を三位一体的なものとして受け止め、常に職員が立ち返る原点として皆で共有化を進めている。また、今年は新たな目標達成項目に「☆季節を感じる食」「☆土と親しみ、収穫を楽しむ」をスローガンに入れ、利用者の外出を増やししながら潜在能力の表出に心掛けている。更に、管理者と従業員全員で『利用者が地域の中でその人らしく安心の生活を続けられるような配慮をして支援と実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 交流サロン、保育園児との交流、14歳の挑戦の受け入れ等積極的に参加している。地域の行事の案内をするなどして交流に努めている。 | ・地域内の私立保育園とは「お遊戯会・クリスマス会・運動会」などの相互交流、近所の団地町内のサロンへのお出かけ交流など、地域の中で孤立しないよう、地域の一員として暮らし続けて行けるよう心がけている。また、地域の中学校との14歳の挑戦は継続的に行っており、当事業所経験者の中から就職希望者の受け入れがあり現在勤務中である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 統括責任者が、地区民生委員をしており、地域の人々に認知症に対する支援の方法を啓蒙している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度実施しており、現状や取り組みの報告を行い、意見や助言をいただいている。また報告書にまとめ、意見をもとにサービス向上に活かせるように努めている。 | ・運営推進会議には、大山地域包括支援センター・民生委員・利用者家族・自治会長などが出席しており、事業所の現況報告、活動報告、意見交換や質疑応答などが活発に行われ記録されている。尚、納涼祭には運営推進会議のメンバーも参加しており、利用者や近隣住民・事業所職員との親睦の場ともなっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域福祉課職員とは、日頃からグループホームの日常や入居者情報を、要介護更新手続き時、話している。 | ・市町村職員は、運営推進会議や要介護認定更新など運営や現場のようすを話し合い、一緒に取り組んで行けるよう働きかけをしている。また、富山県認知症グループホーム連絡協議会への積極的参加や大山地区との事業所間交流が活発で繋がりを大切にしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修に参加したりカンファレンス、日頃からの意見交換等で話し合いの機会を持ち共通理解をしている。施錠はせず、言葉等の拘束もないように努めている。 | ・事業所で過去一年間身体拘束の実績はない。管理者と職員は「どんなことがあっても、拘束はしない(日中の玄関施錠なしの徹底など)」方針で、言葉がけなどにも注意して精神的苦痛や抑圧を与えないケアを工夫しながら実践している。事業所では、利用者の安全面を確保しつつ自由な暮らしが出来るよう継続的な支援が行われている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修に参加したり、たえず自分の窃護の中で、言葉の虐待、無視等ないか省みる機会を持つ。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する研修に参加しており、学びを深めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用料金、起こりうるリスク、医療連携加算については詳しく説明し、同意を得るようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議では利用者、ご家族の思いを聞く機会を設けている。介護相談員を月に一度派遣してもらっている。利用者の思いを察する努力をしている。 | ・運営推進会議などで、利用者や家族の具体的な要望や意見を集めサービスの向上に繋げる体制を整えている。また、家族には花見などの行事に参加を呼びかけ歓迎している。また、介護相談員には、管理者か主任介護士が必ず応対し相談や話し合いを行い前向きに受け止めながら運営している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見、要望を聞くように心掛けている。 | ・管理者は、日頃から運営管理について職員の要望や意見を傾聴し、異動の配慮や働く意欲及びサービスの質の向上に努めている。また、職員の処遇改善についても熱意を持っており、職員を大切にしてコミュニケーションを図るよう心がけている。 | ・職員の現場意見や要望の掘り起こしとともに、向上心が持てる職場環境や処遇面での具体的な取り組みに期待したい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 自己評価を参考にし、個々の努力や実績を評価している。また職場環境・条件の整備向上に努めたい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 必要に応じ研修に参加させてもらっている。研修後、カンファレンスの際に研修報告を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 富山県認知症グループホーム連絡協議会事務局を引き受けており、役員と共に研修の企画・立案・運営に参加している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の思いを傾聴し、理解し、カンファレンスなどで職員全体で検討している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族と時間を合わせ、事前に話し合う機会を持ち、相談を受けれるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の思いを理解するよう、相談をくり返し、納得できる対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 当たり前の生活を大切に、喜怒哀楽を共に出来るように取り組んでいる。人生の先輩としてご本人からの学びも多く、支え合う関係作りを心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の日頃の様子をお伝えしたり、ご家族の思いを伺えるよう来訪時にはお話しする時間を作るよう心掛けている。情報を共有したりご家族の力をお借りしてご本人を支えていける関係を築けるよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの店や場所に出向いたり、知人との交流が途切れないよう、支援している。 | ・利用者一人ひとりのこれまでの社会的な関係及び人間関係・希望などを把握し、商店や理美容院、買い物や食事など行きつけの場所と付き合いが継続できるよう、職員が同行して地域との接点を大切にしている。また、年間行事で利用者の楽しむ機会を多く作っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりの心身の状態や気分また他者とのトラブルは、原因を把握し、利用者同士で解決出来る事は見守り、時には調整役となりご本人の持つておられる関係作りの力を引き出せるよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 時には、利用が終了になった方とも連絡を取ったり、他に入居を希望されている方の情報をいただいたりということもある。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の思いや希望を耳を傾けるよう心掛けています。ご本人の表情や非言語的の部分でも把握するよう努めています。 | ・日常の会話を重視し、一人ひとりの気持ちや希望の把握に努めている。言葉で言いづらい利用者でも、時間を掛けて、表情やしぐさから本人の思いや意向をくみ取るようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族等からの情報を大切にしながら、ご本人の生活にはりあいのあるものになるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの個性や生き方、心身の状態などをベースに出来る事、したい事に対し見守りや一緒に行い、ご本人のペースで生活して頂けるように努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人の出来る事、したい事を取り入れご本人、ご家族、職員と話し合う機会を持ち、作成に努めている。 | ・生活・心身の状態と日々の記録や気づきを基にしてケアプランが作られ、定期的にモニタリングをし、さらに、状況の変化により職員間で情報を共有しながら見直しをしている。その都度、本人、家族、職員と話し合い、現状に即したケアプランを作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日個別の日記に記録し、職員全員が情報、課題を共有出来るようにしている。また記録により介護計画の見直しも行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 日々変化がある事を理解し、あらゆる方向からも考えていけるよう取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員やボランティアの方々や馴染みの方と、交流の機会を持ったり、学校や保育園との交流も行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人、ご家族が希望されるかかりつけ医を利用されている。緊急の際にはすぐに駆けつけて下さる協力医院との関係も築けている。ターミナルケアも経験している。 | ・協力医に月2回の訪問診療をしてもらい、適切な医療を受けられるよう支援をしている。本人や家族の訴えがあった場合には主治医を受診している。伝達方法は、月1回のお便りと同様に報告している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤の看護職員が入居者の健康管理を行い、状況に応じて対応している。24時間、相談、連絡が取れるようになっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族・病院等と情報交換し、対応可能な段階で早期退院が出来るよう、医療機関と話し合いを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご家族・かかりつけ医・職員が連携し、話し合い、全員で方針を共有し終末ケアを行っている。 | ・入所時には、終末期に向けた事業所の方針を話している。時期が来れば、本人、家族、主治医、看護師、職員と話し合いを設け、本人、家族の希望に沿えるように支援をしている。本人、家族の同意が得られたら確認書を基にし、医療機関と連携しながら終末期のケアを行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを作成し、急変や事故発生時に備えている。全職員が救命救急法を学んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署立ち合いのもと、入居者様と共に避難訓練を実施している。夜勤帯想定での避難訓練も行っている。 | ・今年の1回目、消防署の立ち合いのもと、防災マニュアルを作成され、夜間を想定にした避難訓練を実施している。備蓄品も備えている。2回目は、3月の予定である。地域住民との協力を呼びかけているが現状では参加されていない | ・大浦地区の集まりの場や区長・民生委員などにお話して、事業所から災害防災協力隊などの、組織づくりの提案や不慮の事故発生時の協力依頼など相互の関係づくりが望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を理解し、誇りやプライバシーを大切にされた対応を心掛けている。 | ・他人に知られたいくない事は、こっそり聞いたり、プライバシーを損ねないように個々に合った言葉かけを行っている。申し送りの時にも個人の情報が洩れないよう配慮されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人に沿った声掛けで、気持ちを読み取ったり、表情・態度から気持ちを読み取ったりしながら、自己決定出来る場面や機会を支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来る事・したい事を一人ひとりのペースに合わせてして頂けるような環境作りを提供し、希望に沿えるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの理容・美容店へ行けるよう努めている。ご本人のこだわりや身だしなみなど、決定して頂けるよう努めている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節感を味わって頂けるような食材を用意したり、一緒にメニューを考えたり、調理・盛り付け等、出来る事をして頂き一緒に楽しむよう努めている。 | ・畑で採れた野菜や季節感を取り入れた献立を利用者と一緒に考えたり、食事の調理から盛り付け・片づけまでの一連の作業を職員と共に行っている。納涼祭には、焼きそばなどの野外食を家族や地域の方と一緒に作り、楽しいひと時を過ごしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量・水分量・メニューを記録し、全職員が情報を共有しながら支援している。水分摂取の少ない方には、その人に合わせた飲み物や形状の物を提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりの力に応じた声掛け・見守り・介助を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握して声掛けを行い、トイレでの排泄を促し、おむつの使用をなるべく避けるよう支援している。一人ひとりの排泄のサインを見逃さないよう心掛けている。 | ・排泄チェック表の活用や、本人の行動・表情から排泄サインを把握して、さりげなく声掛けを行い、トイレ誘導をしている。特に、日中は、一人一人の排泄サインを見逃さないよう気を付けている。できるだけ、おむつの使用を避けるように支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日頃から、適度な運動や食事・飲み物の工夫をしたりして、便秘の予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの希望やタイミング・体調に合わせた声掛けを心掛けている。決して無理強いせず、少しでも気持ち良く入って頂けるよう取り組んでいる。 | ・入浴は、利用者の好みの時間帯や体調に合わせてゆったり入浴できるようになっている。拒否された方には無理強いせず、時間を掛けたり、職員が付き添ったり、少しでも気持ちよく入浴できるよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | その時の状況・体調を把握し安心して休んで頂けるよう努めている。生活習慣も意識して支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個人ごとに薬の目的や副作用のリスクなど全職員が理解出来るよう資料は整えてある。服薬時は手渡しで服用出来ているか確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 食事作り、食器洗い、洗濯物や縫い物、好みのテレビ・好みの本、ちぎり絵等、一人ひとりの生活歴や経験等、力を活かして頂けるような場面の支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりの希望に沿って天気や体調に合わせてながら、積極的に外へ出かけやすい雰囲気作りをしている。季節の変化を感じて頂けるようなドライブや散歩、花見、初詣等の外出もしている。ご家族と外出・外泊される方への支援もしている。 | ・その日の天候や気分に合わせて外へ出たり、積極的に散歩したり、買い物、家族と外出・外泊など支援している。季節毎のドライブや花見、初詣などにも行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の希望やお力に応じてお金を所持しておられ、支払いもご自分でされている方もいる。力に応じて見守り、支援している。ご家族とも、お金の所持の大切さについて、理解して頂けるよう話し合い支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望やお力に沿って支援している。ご家族やご親戚、ご友人等との電話や年賀状、手紙での交流も支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 換気をしたり温度・湿度の調整をしたり、入居者様の様子を見ながら細目に配慮するよう努めている。季節を感じて頂けるような花や飾り付けなども工夫している。 | ・2ユニットは、同じ内装であるが、家具や床の色で雰囲気の違いが出ている。季節に応じて換気・温度・湿度が調節されている。居間や和室もあり、家庭的で落ち着いた環境への配慮がなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 和室には、こたつテーブルやテレビ等、リビングにもテーブル・ソファ・テレビ等を設置し思い思いに過ごして頂けるような工夫をしている。その時に応じて模様替えも工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物や、好みの物、思い出の写真等を持ってきて頂き、ご本人が居心地良く過ごせるよう、ご家族とも相談しながら工夫している。 | ・自宅で使用していた家具、衣装箱や家族の写真、着慣れた服など馴染みの物が持ち込まれていて本人が居心地よく暮らしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレやお風呂等、わかりやすいよう、看板をつけたり、その時々々の状況に応じて一人ひとりの力を活かし自立して暮らせる環境作りに努めている。 | | |

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 2 月 16 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|--|--|---|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 13 | 職員間で個々に能力の差がある。スキルアップを目指していきたい。 | 課題に合わせ事業所内研修、外部への研修に参加する。 | 職員にあわせた研修をピックアップし、定期的に参加してもらう。 | 12ヶ月 |
| 2 | 35 | 様々な災害を想定した訓練が行われていない | 年に2回だけでなく定期的に職員、入居者様との避難訓練を行う。 | 地域住民に対して、協力体制の働きかけを行う。定期的に訓練を行い、いざという時に備える。 | 12ヶ月 |
| 3 | 3 | 運営推進会議にご家族の参加率があまりよくないので、参加して頂きご家族の声もあげて頂きたい | 参加して頂く事によって 取り組みの理解やご協力を得られ、またご家族のお力をお借りし、お声を聞きながら支援していきたい | 運営推進会議の案内をし 口頭でも参加をお願いする。 | 12ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。